

「爆心へ」実行委員会 × こほろぎ舎共催
いま、音楽・戦争・少女を、考える

登壇者：寺尾紗穂 Saho Terao（音楽家、文筆家）

小林エリカ Erika Kobayashi（作家、アーティスト）

ゲスト：塚本百合子 Yuriko Tsukamoto（明治大学平和教育登戸研究所資料館学芸員）



2025年8月16日(土)
11:30～13:45

(11:00開場、上映後にトークセッションがあります)

場所：
日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール
地下1階 大ホール

東京都千代田区日比谷公園1-4 地下1階
www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya
アクセス：東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分
JR 新橋駅 日比谷口より 徒歩約10分
当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。



8.16

チケット：

学生：1300円（当日券1500円）／一般：1800円（当日券2000円）
書籍つき：小林エリカ『女の子たち風船爆弾をつくる』（文芸春秋）
書籍つき：寺尾紗穂『戦前音楽探訪』（ミュージック・マガジン社）
CDつき：寺尾紗穂『しゅー・しゃいん』（こほろぎ舎）

●チケットはPeatixとLive Pocketにて販売します。
●当日券は会場にて数量限定で販売予定です。
●書籍つき、CDつきチケットは予約のみになります。

映像版

「女の子たち
風船爆弾をつくる」
上映＋トークセッション

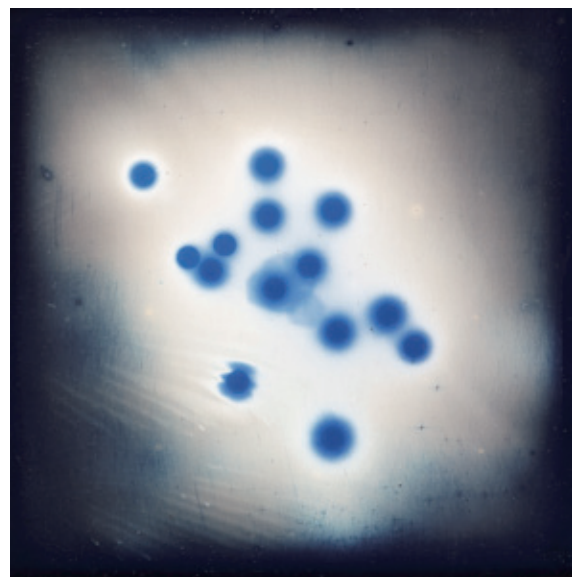


Artwork: Erika Kobayashi "Spring Dance (Dreams of Love)"
"Cherry Blossom 2025"



「爆心」をめぐる映像作品上映と
トークセッション

Artwork: Takashi Arai
"6 Apr 2013, Trinity Site, White Sands Missile Range, NM"
"Suns, multiplied, Bikini Island, No.1"



ゲスト：

松田隆夫 Takao Matsuda（被爆者団体「武蔵野けやき会」会長）

Bombshelltoe Collective[※]（アートコレクティブ）

キャシー・ジェットニル=キジナー[※] Kathy Jetñil-Kijiner

（詩人、アクティビスト）

※はオンラインでの参加を予定しています。

場所：

日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール
地下1階 大ホール

東京都千代田区日比谷公園1-4 地下1階
www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya
アクセス：東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分
都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分
東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分
JR 新橋駅 日比谷口より 徒歩約10分
当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

「爆心へ」#エピソード1 東京編

8.15



2025年8月15日(金)
15:00～20:00

(14:30開場、途中休憩あり、入退場自由)

登壇者：

新井 卓 Takashi Arai（アーティスト）

川久保ジョイ[※] Yoi Kawakubo（アーティスト）

小林エリカ Erika Kobayashi（作家、アーティスト）

竹田信平 Shinpei Takeda（アーティスト、映画監督）

三上真理子 Mariko Mikami

（キュレーター、プロジェクトマネージャー）



アート・バス「爆心へ/To Hypocenter」号

チケット：

学生：1300円（当日券1500円）／一般：1800円（当日券2000円）

●チケットはPeatixにて販売します。
●当日券は会場にて数量限定で販売予定です。
●本企画をご支援いただくための特別チケットも数量限定でご用意しています。
●チケットに関する詳細は「爆心へ」ウェブサイトにてご確認ください。



1945年のトリニティ実験、そして広島・長崎への原子爆弾投下から 80 年を迎えるこの夏、日本国内外で活動する現代美術作家やキュレーター／プロジェクトマネジャーが中心となり、過去、現在、そして未来の爆心を考えるためにプロジェクト「爆心へ」をはじめました。ひとつの爆心から複数の「爆心」へ ―― アート・パス「爆心へ/To Hypocenter」号が、広島、長崎を巡り、東京を結ぶ旅に出ます。爆心を知らないわたしたちはどのように他者の記憶に触れ、想像し、語り継ぐことができるのでしょうか。映像作品の上映やトークセッション、被爆者との対話や「爆心」へ向かうブックリストを通して、この困難な問いにアートが応答する場をひらきます。

上映予定作品 イベント当日のプログラムはウェブサイトにてご確認ください。

竹田信平「アポカタスタシス」

(83分/2022年) 英語・スペイン語、日本語字幕あり

ドイツとメキシコの2人の若者が、心の傷と放射能に翻弄されながら、隠れキリシタンがいた無人島へと辿り着く。交差する原爆の記憶と見えない力からの解放はありえるのか。メキシコ・ドイツ・長崎で撮影した長編映画。



新井 卓「千の女と旧陸軍被服支廠のためのアンチ・モニュメント」

(20分/2020年) 日本語、英語字幕あり

個人の記憶は世代をこえてどのように語り継がれ、変容するのか ―― 戦争中女性たちの手によって作られた千人針の歴史に注目し、広島の三世代の女性による語りを無編集でとらえたモキュメンタリー作品。ヨコハマトリエンナーレ2020出品作。



新井 卓「49 PUMPKINS」[※]

(15分/2014年)

太平洋戦争末期、「カボチャ爆弾」と呼ばれる49個の模擬原子爆弾が日本各地に投下された。B25重爆撃機をチャーターしアメリカ本土に49個のカボチャを投下する本作は、テキサス州サン・アントニオ市民との協働により制作された。体験不可能な他者の記憶に対するわたしたちの協働の可能性を問う。



川久保ジョイ「スロー・ヴァイオレンチェロ」

(30分/2024年) 日本語字幕あり

青森県六ヶ所村の原子力施設とブナ林で、川久保が植物に向けて20時間チェロを演奏する過程を記録した映像作品。Tomi Räisänen作曲の楽曲を用い、「Slow Violence (緩慢な暴力)」の概念に着想を得て制作された。



Phew + Dieter Moebius + 小林エリカ「Radium Girls」[※]

(4分/2012年)

暗闇の中で光を放つラジウム。かつてマリ・キュリーが“妖精の光”と呼んだその“光”の存在に翻弄された、ラジウム・ガールズたちをはじめとする、ひとりひとりに捧げるビデオクリップ。本作を含むミュージックアルバムは2025年夏、ドイツのBureau Bよりふたたびリリースされる。



抜粋版「ウェイズ・オブ・ノウイング―ナバホの核の歴史(仮)」

(6分/2025年) 監督: Kayla Briët 脚本: Lovely Umayam エグゼクティブプロデューサー: Sunny Dooley 制作: Bombshelltoe 日本語字幕: 松永京子

アメリカ南西部に残る核の遺産を、ナバホの語り部による土地に伝わる知の伝統を通して探求する短編VRドキュメンタリー。日本初特別プレビュー。
●今回はスクリーンでの上映になります。



『Anointed (聖なる力)』

キャシー・ジェトニル=キジナー (with ダン・リン)

(6分/2018年)

マーシャル諸島出身の詩人・活動家キャシー・ジェトニル=キジナーと映像作家ダン・リンによる詩と映像の作品。アメリカによる核実験の影響とその遺産を描く。現在も放射性物質が海に漏れ続けているルニット島のドームの上で、伝統的な葬送装束をまとった詩人が、核被害に苦しむ人々と自然への鎮魂と抵抗を表現する。



※はアート・パス内と会場エントランスホールでの上映になります。

アート・パス「爆心へ/To Hypocenter」号は、8月初旬から16日にかけて、広島、長崎、東京を巡回します。詳細はウェブサイトにてご確認ください。

8.15 「爆心へ」

《関連プログラム》

特別上映会

「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」

メキシコ・ティファナを長い間拠点とする竹田信平の2010年長編ドキュメンタリー「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」(73分)の上映と質疑応答(英語翻訳あり)。アメリカ西海岸にいる被爆者を、核の世界を受け継ぐ青年がカナダからメキシコまで訪ね歩きながら綴っていくロードムービー。海を超えたヒロシマ・ナガサキとは？そしてどうこの記憶をダウンロードするのか？

2025年8月14日(木)

17:00開場 17:30開始

場所: メキシコ大使館

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-15-1

アクセス:

地下鉄丸の内線、銀座線「赤坂見附」駅

11番出口から徒歩3分

地下鉄有楽町線、半蔵門線、南北線「永田町」駅

6番出口から徒歩5分

主催: 「爆心へ」実行委員会

協力: 合同会社こほろぎ企画

助成: 公益財団法人東京都歴史文化財団

アーツカウンシル東京【東京芸術文化創造発信助成】

問い合わせ: 「爆心へ」実行委員会

Web: bakushin2025.cargo.site

Email: bakushin2025@gmail.com

IG: www.instagram.com/bakushin2025

X: x.com/bakushin2025

ARTS COUNCIL TOKYO



日本で戦争が終わってから 80 年を迎えるこの夏、一昨年の上演で大きな話題をよんだ朗読歌劇「女の子たち風船爆弾をつくる」映像版の上映会を開催します。ミュージシャン寺尾紗穂の企画・選曲と作家小林エリカの脚本による、かつての歌を甦らせる朗読歌劇シリーズの第二弾となる本作。女の子たちがかつての戦争中に動員され風船爆弾をつくった舞台となる東京、有楽町、銀座の街の劇場で、一日かぎりの上演がおこなわれました。気鋭のミュージシャン角銅真実、寺尾紗穂、浮、古川麦の声と音が集まり、あの頃を生きた女の子たちが実際に歌った歌とともに、過去の歴史が、いまに繋がるものでした。

このたびは、その映像版の上映会とともに、かつて風船爆弾の開発をおこなった旧陸軍登戸研究所の歴史を長年にわたり掘り起こし、保存してきた明治大学平和教育登戸研究所資料館学芸員、塚本百合子さんをゲストにお迎えし、寺尾紗穂、小林エリカとのトークセッションをおこないます。女の子たちの背景や時代にまつわる貴重なお話とともに、いま、音楽・戦争・少女を、考える場をひらきます。

映像版「女の子たち風船爆弾をつくる」

上映後トーク 40分

トーク登壇者:

ゲスト 塚本百合子 (明治大学平和教育登戸研究所資料館学芸員)

寺尾紗穂

小林エリカ

《登壇者プロフィール》

塚本百合子 明治大学平和教育登戸研究所資料館学芸員

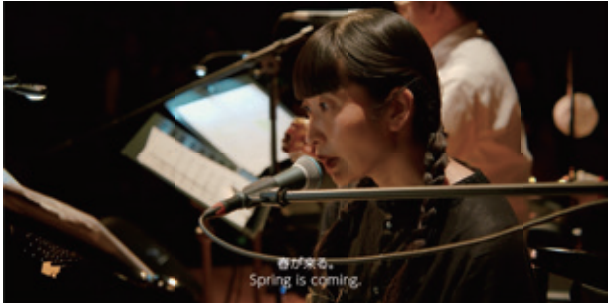
1980年生まれ。2010年明治大学平和教育登戸研究所資料館開館を機に同館の特別嘱託学芸員に。幼少期より祖母から戦時中の話を聞いて育つ。その経験から戦争について考え、伝える活動に携わりたいと志す。登戸研究所関係者や風船爆弾製造に関わった人々への聞き取りを通じ、その思いを戦争を知らない世代にどう受け継ぎ伝えていくかを日々模索中。現在企画展「風船爆弾作戦と本土決戦準備―女の子たちの戦争」を開催中。
www.meiji.ac.jp/noborito

寺尾紗穂 音楽家・文筆家

1981年東京生まれ。オリジナルの発表と並行して、ライフワークとして土地に埋もれた古謡の発掘およびリアレンジしての発信を行う。
あだち麗三郎、伊賀航と共に3ピースバンド「冬にわかれて」でも活動続ける。
書籍最新刊は『戦前音楽探訪』(ミュージック・マガジン社)。
音楽アルバム最新作は「わたしの好きな労働歌」。前作「余白のメロディ」(2022)、「しゅー・しゃいん」(2024)、は『ミュージック・マガジン』の年間ベスト(ロック/日本部門)の10枚に選出された。
www.sahoterao.com

小林エリカ 作家・アーティスト

1978年東京生まれ。目に見えないもの、時間や歴史、家族や記憶、声や痕跡を手がかりに、入念なりサーチに基づく史実とフィクションを織り交ぜた作品を制作する。
著書は『女の子たち風船爆弾をつくる』(文芸春秋)で第78回毎日出版文化賞(文学・芸術部門)受賞。小説『トリニティ、トリニティ、トリニティ』(集英社)、コミック『光の子ども1~3』(リトルモア)など多数。テキストと呼応するようなインスタレーションを国内外の美術館やギャラリーなどでも手がけている。
www.erikakobayashi.com



「女の子たち風船爆弾をつくる」

8.16

映像版「女の子たち風船爆弾をつくる」

2024年／本編95分／日本語、英語字幕あり

監督: 玉田伸太郎

出演: 角銅真実、寺尾紗穂、浮、古川麦

企画: こほろぎ舎

選曲: 寺尾紗穂、小林エリカ

脚本: 小林エリカ

字幕翻訳: Brian Bergstrom

制作: 瀧口幸恵、呉宮百合香、村口菜理

《朗読歌劇シリーズ第一弾》

「女の子たち 紡ぐと織る」 2021年

映像監督: 河合宏樹 出演: 青葉市子、寺尾紗穂

企画・運営: NPO法人トッピングイースト

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

『隅田川怒涛』作品

